

経営比較分析表

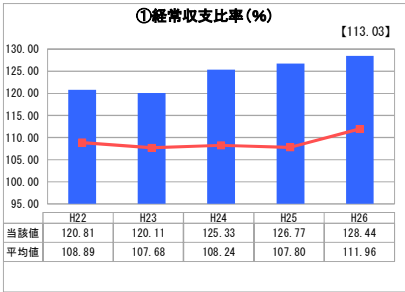
北海道 恵庭市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	71.19	99.26	4,046

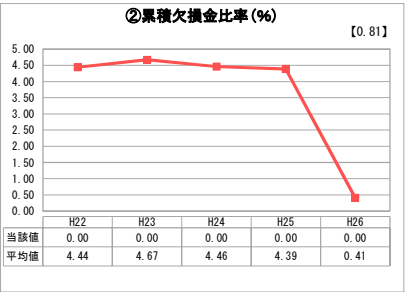
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
68,956	294.65	234.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
68,387	84.05	813.65

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

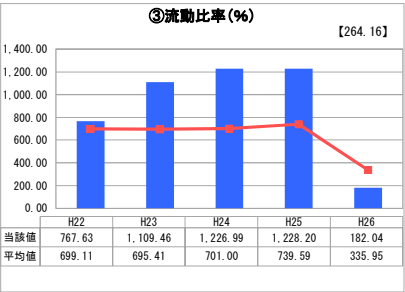
1. 経営の健全性・効率性



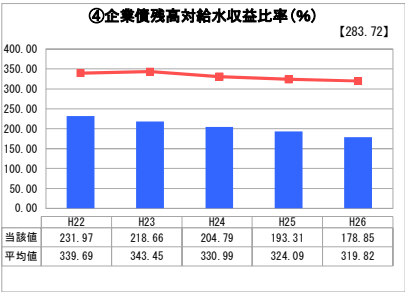
「経常損益」



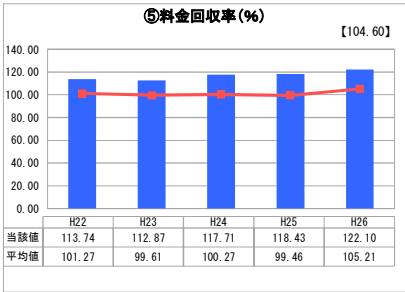
「累積欠損」



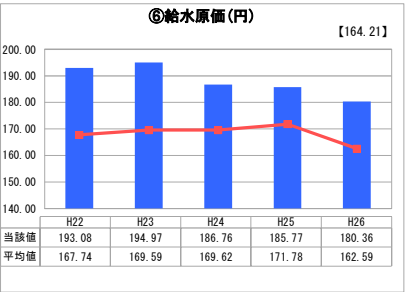
「支払能力」



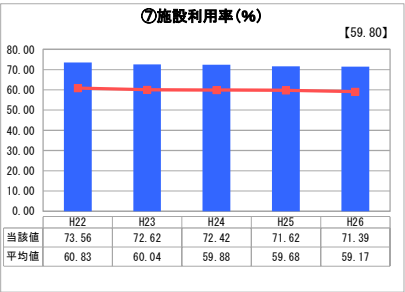
「債務残高」



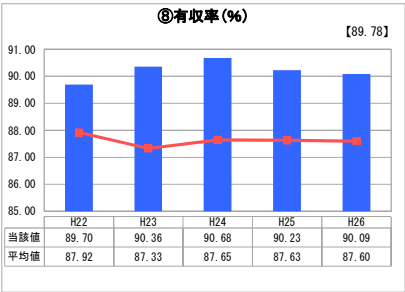
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

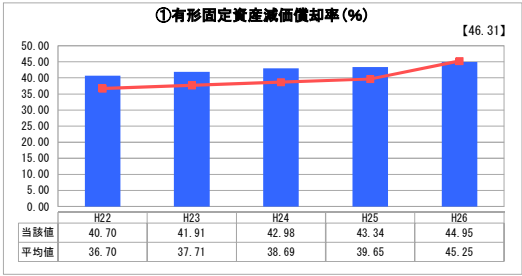


「施設の効率性」

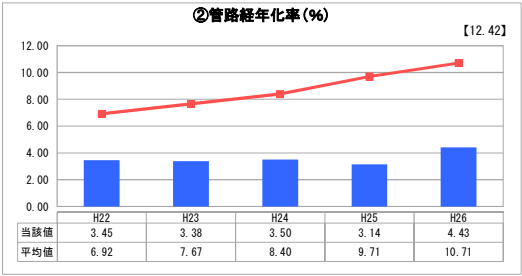


「供給した配水量の効率性」

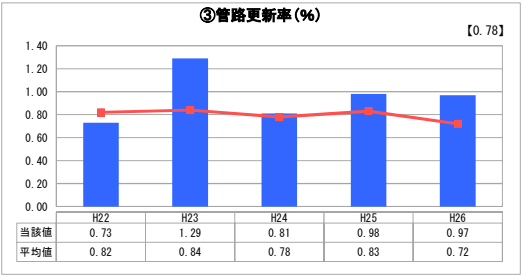
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成26年度までは、料金回収率も高く維持しており収益性は良好といえ、継続した健全経営が行われていいます。業務の委託化など業務の見直しを行い、比較的小さい割合の固定資産で事業運営を行ってきたため、企業債の新規発行を抑制できました。平成27年度には恵庭浄水場の廃止と千歳川からの受水費の発生、さらには漁川系の受水料金単価改定など水道事業を取り巻く環境が大きく変わってきています。今後は、節水機器の普及や人口減少などによる料金収入の減少も加わり、収支比率等が悪化していくことが予想されており、平成27年4月には「恵庭市水道事業経営戦略」を策定し、今後の投資・財政状況や経営についての方向性を明らかにしたところです。

2. 老朽化の状況について

本市は、昭和50年代以降急速に市街地が発展したことにより、水道管路も今後次々に更新時期を迎えるため、経年化率が上昇していくものと考えられます。そのため、平成27年度に策定した水道管路更新事業計画を基本として耐震性の低い既設管路を更新し、事業の標準化を図り計画的に整備を実施していきます。

全体総括

平成26年度までは概ね安定的な経営状況でしたが、平成27年度には恵庭浄水場の廃止と千歳川からの受水費の発生、さらには漁川系の受水料金単価改定など水道事業を取り巻く環境が大きく変わってきています。加えて、管路の老朽化による更新経費等の増加、節水器具の普及・人口の減少などによる料金収入の減も見込まれ、今後経営状況は厳しいものとなります。これらに状況の変化に対応するため「恵庭市水道事業経営戦略」を策定し、管路施設整備の標準化と企業債発行、一般会計からの繰入や繰上償還など、さまざまな経営努力により経営状況の急激な悪化を防ぐものとしております。